

編輯室より

△別記の如く、十月號より編者の變更あり、今後 荒木講師此の任に當らるゝ筈。
 △九月號の豫告に反して荒木氏の通俗講座は休講、「人類と人類」を以つて之れに代へらる
 △山本助教の滯米中に我等は氏の御寄稿によつて、米國の天文臺を一顧參觀する事が出来た。新入會員の爲めに其の文を含む舊號を示めさう。

三卷五月號(二十九號)

ヤーキース天文臺、ヤーキース天文臺の現況

三卷十一月號(三十四號)

リク天文臺の現狀

三卷十二月(三十五號)

ウイルソン山天文臺に來て

本號

ハーバード大學天文臺の此の頃

尙氏の海外日報中には大小數箇所の天文臺訪問の記事を見出し得べし。

△天文と關係深き「コロンブスの航海について」教へらるゝを喜ぶ。彼は記憶さるべき同好者の先輩である。

△御斷り、「此の頃小望遠鏡で面白い星」は反射鏡の記事の爲めに當分休載す。

觀測部より

△天文電報は事件無き爲め發行せず。山本氏歸來の上は再活動を始む豫定。
 △火星觀測の際スケッチを取られし方は送られたし。

事務室より

△大津の伊藤准一君八月中働かれしも、家庭の都合上充分に御願ひ致し兼ね、九月十日以後、京都の小林忠次郎君が事務の方面に獻身的に御活動下さる事となる。

△前金切の方九月號天界發送の際、總會員の半數以上ありたり、速かに御拂込を乞ふ。

廣告

大正十年十月より事務に掌り、十一年九月以後編輯をも兼任せし海老恒治氏は今回其の主イエキリストの召を蒙り、其「主の用」に専ら従ふべく本會を辭せり。氏は去るに際し既往に於ける幹事諸氏並に會員諸氏の御愛顧を深謝されたり。

今後氏の住所は
 東京市外下落合二七四 柘植不知人氏方
 京都の住家は近く全部引拂ふ筈。

天文同好會

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----|
| 本會 | 京都帝國大學 | 同志社大學 | 天文臺 |
| 京都支部 | 京都市 | 同志社 | 山本 |
| 東京支部 | 第一朱雀小學校 | 同好會 | 濱野 |
| 西陣支部 | 京都市錦小路 | 同好會 | 清人 |
| 三條支部 | 京都市七本松五辻下 | 同好會 | 宮川 |
| 大坂支部 | 京都市東區安土町三丁目 | 同好會 | 上澤 |
| 神戸支部 | 兵庫縣尼崎町四丁目 | 同好會 | 熊野 |
| 甲南支部 | 兵庫縣西宮町 | 同好會 | 德勝 |
| 岡山支部 | 岡山縣津山市 | 同好會 | 清一 |
| 美作支部 | 岡山縣美作郡津山市 | 同好會 | 吉野 |
| 名古屋支部 | 名古屋市中區東區東区 | 同好會 | 野垣 |
| 長野支部 | 長野縣上野原町 | 同好會 | 正敏 |
| 高水支部 | 長野縣下高井郡瑞穂小學校 | 同好會 | 吉野 |
| 松本支部 | 長野縣松本市 | 同好會 | 吉野 |
| 諏訪支部 | 長野縣諏訪市 | 同好會 | 吉野 |
| 廣島支部 | 廣島縣上野原町 | 同好會 | 吉野 |
| 山口支部 | 山口縣大牟田市 | 同好會 | 吉野 |
| 仙臺支部 | 仙臺第一高等學校 | 同好會 | 吉野 |
- 大正十三年九月廿四日印刷(定價三十五錢)
 大正十三年九月廿五日發行(郵税金五錢)
 聖護院局私書函第十一號
- 編輯兼發行者 天(京都市下京區西洞院七條南入) 同好會
 右代表者 振替貯金大阪五七六七番 同好會
 發行所 京都帝國大學天文臺內 同好會
 印刷所 內外出版株式會社印刷部 同好會
- 賣捌所 警告
 東京京橋銀座尾張町 丸善株式會社
 東京京都大阪福岡仙臺 同好會